

平成 28 年度専門学校東京ビジネス外語カレッジ
学校関係者評価実施報告書

評価対象期間 自：平成 27 年 4 月 1 日
至：平成 28 年 3 月 31 日

平成 29 年 2 月
学校関係者評価委員会

学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

専門学校東京ビジネス外語カレッジにおける学校関係者評価の目的を以下のように定める。

①自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②企業・関係業界など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

専門学校東京ビジネス外語カレッジにおける学校関係者評価は、『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

3) 委員会運営

平成28年度における学校関係者評価委員会を、以下のように年1回開催する。

添付：自己点検評価／学校関係者評価

平成27年度（前年度）の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。

平成28年度に定めた、重点的に取組むことが必要な目標・計画を発表する。

平成28年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う。

2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として以下、企業、関係業界に委嘱した。

氏名	所属	属性
中田 昌孝	株式会社ザイマックスエステートデザイン 専務取締役	企業・業界団体関係者
櫻井 通義	一般財団法人日本病院管理教育協会 理事長	企業・業界団体関係者
中村 智由	一般財団法人日本病院管理教育協会 事務局次長	企業・業界団体関係者
遠藤 乙彦	株式会社グローバルビジネス戦略総合研究所代表取締役社長	企業・業界団体関係者
野上マルドナド 知代子	株式会社グローバルビジネス戦略総合研究所研究開発部長	企業・業界団体関係者
荻野 正昭	学校法人 ISI 学園常務理事	法人代表者（事務局）
井上 由紀子	学校法人 ISI 学園専門学校事業本部本部長	法人代表者（事務局）
並河 克彦	専門学校東京ビジネス外語カレッジ校長	法人代表者（事務局）
伊藤 玲	専門学校東京ビジネス外語カレッジ教務副主任	法人代表者（事務局）
韓 洋春	専門学校東京ビジネス外語カレッジ事務局主任	法人代表者（事務局）

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

1) 学校関係者評価委員会実施日時・場所

日時：平成29年2月16日(木) 10:00 から15:00

場所：専門学校東京ビジネス外語カレッジ 会議室

2) 学校関係者評価委員会 進行状況

2015年度学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会日程		
議次第		
時間	項目	担当者
10:00	開会挨拶	荻野常務理事
10:10	委員紹介	事務局
10:15	模擬授業	事務局
10:25	自己評価結果概要説明 専修学校における学校評価ガイドラインに基づく評価の大項目別の概要説明 並びに外部評価委員の方からの評価	事務局
12:00	昼食休憩	
13:00	自己評価結果概要説明 専修学校における学校評価ガイドラインに基づく評価の大項目別の概要説明 並びに外部評価委員の方からの評価	事務局
14:30	質疑応答・意見交換	事務局
13:55	結果取りまとめと公表計画について	事務局
14:55	閉会挨拶	事務局

4. 基準項目ごとの学校関係者評価及びご意見

基準1：教育理念・目的・育成人材等

「世界を翔る即戦力、創造力の育成」という学園の教育理念はグローバル化が進む現代社会にとって必要だと思う。また、学園理念・目的・育成人材像が明確に定められており、計画性を持って運営されていると感じる。

グローバル人材が即戦力として活躍できる専門性の育成に協力していきたいと考える。

基準2：学校運営

運営方針を明確に定め、健全な学校運営が実施されていると思われる。

明確な運営方針・事業計画を定め、それらに沿った方針を理事会から幹部職員を経て、定例職員会議にて通達するという流れが構築できている。また、学生管理を含む事務手続きのICT化が推進され、学校運営業務の効率化が実践されている。

御校の特徴である「多国籍」ゆえの多様な価値観が集結すること、それによるケミストリーに大きな魅力を感じる。今後の日本人の価値観形成にも大きな影響があるものと思われる。

基準3：教育活動

業界のニーズに応えるため、カリキュラムの改編や企業との連携を通して教育の質向上を図っていることは素晴らしいと思う。

グローバルな環境を存分に活かした2つの学科が設置され、それぞれに特色があるコースを展開している。また、今後の課題として職業実践専門課程認定を見据えた企業連携の強化など、具体的な目標のもと、教育内容全般をよりよくするための努力がなされている。今後さらに生徒からのアンケート結果等を踏まえ、教員の採用や育成により一層注力されることが期待される。

日中医療通訳コースのような業界特定の専門性の高いコースの新規開設にご協力させていただきたいと考える。

基準4：教育成果

日本語能力試験N1を取り入れ、質の高い教育と成果を上げているのには驚いた。意欲的な教育の姿勢を感じる。キャリアセンター、教務、非常勤講師が協業して早い段階から就職率向上のために、きめ細かく取り組んでいるのは、とてもよいことだと思われる。

「業界が求める即戦力」について各業界も具体要件を整理する必要があるが、一方、キャリアセンターにて学生が求める（重視する）就業イメージについても随時確認いただき、業界（企業）へフィードバックいただければ幸甚である。

基準5：学生支援

キャリアセンターに専任職員を配置するなど、就職についてのバックアップ体制が充実していると感じる。学校独自の奨学金制度を設け、一人でも多くの方に教育の門戸を広げていただければと思う。

留学生が9割を占めるという特殊な環境を踏まえた、様々な学生支援体制が整備されている。就職支援はもちろん、定期健康診断や独自の学費減免制度などを活用・実践している。学生寮も有し、遠方から入学する学生が安心して就学できる体制が整っていることも評価できる。今後の同窓会組織や保護者との密な連携により、さらに学生支援体制が充実すると思われる。

奨学金ファンドについては当社も非常に興味をもっている。今後の日本に大きく不足してくることが予想される産業人材を産学共同で継続的に育成し産業界に輩出していく仕組みが実現すれば、各企業もファンドへの出資に積極的になるものと思料する。

基準6：教育環境

すべての教室に電子黒板を導入するなど設備は十分に整備されていると思う。外部の関係機関と連携して積極的な海外研修を実施されておられるのには感心した。

全教室への電子黒板の導入等、教育のICT化を積極的に進めている。また、フィリピンやシンガポールの教育機関との提携のもと、希望する学生に海外研修の機会が与えられる環境が整っている。提供する教育内容に付随する危機管理や防災の充実が今後の課題として認識され、取り組みが始まっている。また、同校の特徴として、キャンパスがグローバルな環境であることは大きな強みである。

働く環境と学ぶ環境というものは強い相関関係があると思われる。企業においても「毎日オフィスに出勤して働く」というスタイルが徐々に変化してきている。「学ぶ環境」についてもよりセレクトタブルに、フレキシブルになっていくことが重要と考える。

基準7：学生の募集と受入れ

独自に入試広報の部署を設け志願者の問い合わせや相談に丁寧な対応をしている。その結果、概ね募集定員を満了結果につながっていることは高く評価する。

HPからもわかるように、オープンキャンパス等を頻繁に開催し、広報資料にも力を入れている。留学生が多いという状況で苦労もある中、日本語学校との連携のもと、適切な選考に向け常に努力がなされている。卒業生の進路や成果を活用していくことでさらなる学生募集の強化が展望され、また、留学生のみならず日本人学生の募集も伸びていくことが期待される。

外国人学生の募集、受け入れについては当社も今後積極的に連携を取りたいと考えている。募集に関しては当社グループのグローバルネットワークとの連携、受け入れに関しては、校舎、寮の確保に関して、である。

基準8：財務

若年人口の減少により学校経営の厳しさが増す中で、貴校は健全な財務内容だと言える。

更なる財務体質の安定化に向け、学校事業とシナジー効果の高い収益事業の組み込みにつき協力させていただく所存である。

評価不可 - 理由：財務上の評価は、専門的知識を有しない外部の者としては判断しがたい。ただし、報告書を参照する限りにおいて、中長期的に安定した財務基盤を築き、HP上での公開へ向けても準備が整っており、適切であると思われる。

基準9：法令等の遵守

適正な法令遵守がなされているので安心と信頼をおいている。個人情報の管理を強化し厳重な保護施策を講じていることは大事なことだと思う。

外国人留学生の受け入れ実績・実情から、専修学校としての法令遵守にとどまらず、出入国管理等に関わる法令や都の指針を常に把握し遵守するなど、教職員全体で意識が高くなっている。自己点検・自己評価についても、今後毎年行いHP上で公開予定であり、学校としての社会的責任や立場が十分認識され、長期的視野に立った体制が整いつつある。

多数の外国人留学生を受け入れられている御校は通常の学校法人よりも関連する法が多岐にわたっているものと推察する。法令遵守の施策については企業においても「これで充分」というゴールはない。引き続きの注力していただきたい。

基準10：社会貢献

多国籍な留学生が多いということもあり地域社会の国際化に貢献していると思う。

評価不可 - 理由：産業界が求める人材を社会に輩出するという大きな社会貢献を目標の柱とし、日々努力がなされていることが分かる。ただ、地域への具体的な貢献という面では、まだ移転3年目ということもあり、今後の発展が大いに考えられる。専修学校としての歴史も浅いところもあり、まだ現時点では評価するのが難しい。

少子高齢化が加速する日本社会においてあらゆる面でグローバル化は必然であり御校に課される役割は極めて重要であると思料する。当社も具体的な社会（会社）のニーズを積極的にアウトプットしていくつもりである。

5. まとめ

専門学校東京ビジネス外語カレッジは、学校関係者評価委員会から頂戴した評価、ご意見を真摯に受け止め、今後の学校運営に活かしていく。

また、更に学校が成長・発展を遂げるため、尚一層の努力を重ね、地域・社会貢献のためにグローバル人材を育成・輩出していく所存である。

以上